

令和7年度 福井県立大野高等学校全日制 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習支援	<p>a 家庭学習の現状をより正確に把握し、課題への取り組みや主体的な学習を促していく。 目標：生徒の家庭学習充実度の目標指数 肯定的評価60%以上</p> <p>b 公開授業や研修会等の授業研究体制を通して、指導方法を研究し実践する中で授業改善に取り組む。 目標：教員の授業力改善および生徒の授業満足度の目標指数 肯定的評価80%以上</p>	<p>a 家庭学習の課題の量や内容については生徒・教職員ともに目標指数を上回る肯定的評価を得ることができた。また、保護者アンケートでは家庭学習の習慣が身につけているという評価は6割程度であった。しかし、学習時間は1・2年生とも平均すると平日1時間程度と少なく、休日もほとんど変わらない状況であった。また、今年度、基礎学力テストを実施した結果、2年生は基礎学力はある程度あるが、応用力が不足していることや1年生は上位の生徒でも基礎学力がまだまだ不足していることがわかった。</p> <p>b 教員・生徒・保護者全てで目標指数を上回り、昨年度よりも肯定的評価を得ることができた。</p>	<p>a 学習課題の質の向上、課題点検の工夫、授業での学習内容の扱い方など、各教科の特性を踏まえながら、質・量ともに適切な学習課題を探る。来年度も基礎学力テストを実施し、基礎学力を把握する。また、現1年生の基礎学力向上を図る。</p> <p>b 引き続き校内での公開授業や研修会を定期的実施し、授業の改善、指導力の向上を図る。また、次年度も保護者に授業を公開する日を設け、外からの授業評価を参考にし、改善に生かす。</p>
2 生徒支援	<p>a 毎朝の遅刻指導や容儀点検、交通安全指導の徹底により、生徒の規範意識の向上に努める。 目標：生徒の規範意識達成の目標指数 肯定的評価95%以上</p> <p>b 学校祭・委員会活動・部活動を充実させ、生徒の主体的活動を推進する。 目標：生徒の生徒会行事や部・サークル活動の目標指数 肯定的評価90%以上</p>	<p>a 正しい身なりで学校生活を送るよう努めたと回答した生徒・保護者は97%以上おり、規範意識の高さがうかがえる。また、容儀指導に取り組んだ教職員は87%となっており、前年とほぼ同率である。容儀指導については、風紀委員を中心に点検を実施しているため、生徒の自主性を重んじ、信頼する意識があると思われる。</p> <p>b 生徒会行事・委員会活動の取り組みについて、充実・満足していると回答した生徒・保護者は96%、学校祭や委員会の指導に取り組んだ教職員は93%であった。 本校の部活動に満足していると回答した保護者は4年連続で90%以上となった。部活動指導を行ったと回答した教職員は84%おり、前年度より9ポイント上昇した。充実した部活動・サークル活動ができたと回答した生徒は96%となっており、高い水準を保っている。1年生で96%、2年生で97%、3年生で97%と、全ての学年を通して充実した活動となっていることがうかがえる。</p>	<p>a 登下校時の挨拶や交通指導を、効果的かつ充実した活動にする。容儀点検に関しては、引き続き風紀委員が中心となって実施する。校内の規則について全教職員との共通理解を図るため、様々な機会を捉えて説明をする。また、生徒会や風紀委員会を中心に校則などの見直しに取り組む。</p> <p>b 生徒会行事や学校祭、委員会活動については、学年を越えて協力し、創意工夫を凝らして取り組むことができるよう支援する。さらに、生徒が自主的に充実した学校生活を送ることができるよう、学校行事の活性化・効率化に努める。部活動やその他の活動に生徒がより主体的に取り組むことができるよう努め、様々な活動を通してリーダーの育成を図る。また、充実した学校生活を送ることができるように、環境を整えて支援する。</p>
3 進路支援	<p>a 進路に係わる支援の検証と実践を通して、生徒が進路の目標と実現の方策を具体化し主体的に取り組めるように努める。 目標：生徒が進路の目標を決め具体化するの目標指数 ・肯定的評価90%以上</p> <p>b 各種研修会・ガイダンス等への参加を促し、進路実現を支援する力の向上に努める。 目標：教員の進路講演会や各種研修会等への積極的参加の目標指数 ・肯定的評価90%以上</p>	<p>a 進路の目標を決め具体化に関し、「具体化した」と回答した生徒が全学年で86%（昨年比-1ポイント）と前年度よりわずかに減少した。各学年でみると3年86%、2年88%、1年85%であり、本校の進路支援に関する保護者の満足度は87%（昨年比+4%）であった。生徒の進路目標の具体化の目標指数は90%を達成しておらず、近年は減少傾向である。次年度以降、高い肯定的評価を得られるように内容の検討を行っていききたい。</p> <p>b 「生徒の進路目標が具体化した」と回答した教員が97%で前年度と同じで目標指数を達成した。教員の研修会等への参加率は81%（昨年比-2ポイント）で、前年度より減少した。教員向け講座としてスタディーサポートや模試結果を活用した進路支援研修会、予備校講師による小論文研修会を実施した。更に予備校の教員研修会にも参加を促した。教員による生徒の進路実現を支援する更なる体制強化が必</p>	<p>a 生徒の進路目標の具体化を行うために、1・2年生での大学訪問、各学年での生徒対象進路ガイダンス、保護者対象進路ガイダンスでの適切な進路情報の提供を行う。校内で実施している職業発見講座・学問発見講座に関し、内容や講師選定を更に検討し充実を図る。また、各大学で行われている研修講座や職業体験等にも積極的に参加するように促す。</p> <p>b 近年、学校推薦型選抜等を受験する生徒数が増加している。教員による小論文や志願理由書、面接指導の重要性が増しているため、そのための研修会の内容を充実させていく。また、スタディーサポートや模試結果を活用した進路支援研修会を通して、教員の生徒の進路実現を支援する方法の検討を行う。</p>

<p>4 保健管理</p>	<p>a 各種講演会や保健だよりの発行、校内掲示板や保護者連絡システムの活用などで啓発活動を充実し、家庭とも連携して生徒の健康・安全に対する意識を向上させる。 目標：生徒の健康管理意識の目標指数 肯定的評価90%以上</p> <p>b 面談やいじめのアンケートなどを実施し、学年会や関係部署と密に連携した教育相談活動を行い、生徒の抱える問題の早期発見・早期解決を図りながら適切に対応する。 目標：生徒の教育相談活動に関する目標指数 肯定的評価90%以上</p>	<p>a 自己の健康管理に努めた生徒は、1年生96%、2年生93%、3年生94%であり、健康管理に対する意識は非常に高い。保護者の肯定的評価も9割を超えている。保健指導を行った教員は84%で高水準ではあるが、生徒や保護者よりも低い。教職員の意識向上のための方策について検討する。</p> <p>b 「相談したいことがあったら、誰かに相談できそうだと」答えた生徒は、1年生95%、2年生93%、3年生92%と目標指数を上回っている。教育相談に取り組んだ教職員も97%と高い水準であった。「相談できそうにない、できない」と答えた少数の生徒が意識を変えられるよう、相談活動の一層の充実に取り組む必要がある。</p>	<p>a 生徒・保護者への働きかけについては、これまでの取組を継続していく。教職員に対しては、保健室・相談室の利用状況や熱中症・感染症への対応について等、積極的に発信し、生徒の健康を守る意識を高めていけるよう取り組んでいく。</p> <p>b 生徒の相談に迅速かつ適切な対応ができるよう、教職員間の情報共有、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用等、教育相談担当者を中心に学校全体の連携を強化する。校内で相談を躊躇する生徒に対しても、福井チャイルドライン等の電話相談や、適切な外部相談機関を紹介し、必要に応じて外部機関とも連携しながら対応する。</p>
<p>5 図書支援 保護者との 連携</p>	<p>a 朝読書や古本市、図書館だより、図書掲示板などを活用し、読書習慣を定着させる。 目標：年間2冊以上の読書をした生徒 70%以上</p> <p>b PTA総会や保護者懇談会などへの保護者の参加を促し、PTA活動の内容および情報提供を充実させる。 目標：PTA活動の内容および情報提供（保護者）の目標指数 ・肯定的評価80%以上</p>	<p>a 年間2冊以上読書した生徒は53%と昨年度の55%を下回り、1冊も読んでいない生徒は14%から17%に増えた。しかし、その中で3年生は、2冊以上読んだ生徒が過年度比較で39%から58%に増加している。一方、朝読書が読書習慣のきっかけになったという生徒は昨年の50%から53%へと微増傾向が続いている。朝読書を学期末に一週間続けるようにし、図書委員による推薦図書を各教室に配置するなどした効果が浸透しつつあると考えられる。</p> <p>b PTA活動の内容と、その情報提供について満足している保護者は、昨年に引き続き94%と高い割合であった。また教員による情報発信の例としてSNSへの情報提供も加えたところ、情報発信に取り組んだと答える割合が33%から55%と増加した。一方で、保護者への連絡に大高メールの一層の活用を求める声もあった。</p>	<p>a 読書を習慣化させることでその有用性を実感させ、信頼できる情報源としても本を活用できるようにすることを目標に、読書活動を継続する。朝読書の期間を今後も設定し、委員推薦図書の教室への配置や図書館だよりの発行、読書会の実施など、図書委員会を中心とした読書喚起の機会を設け、多くの生徒がその意義を実感できるようにしたい。一方で、昨今の入試では幅広い知識や読解力を問われる機会が増えていることを教職員全体でも共有し、学校を挙げて読書の重要性を生徒に示していけるようにしたい。</p> <p>b 引き続き、保護者懇談会、PTA総会、保護者向け進路ガイダンスなどの行事を充実させ、PTA広報誌「談林」や、広報委員会と連携してHPやSNSでの情報発信を積極的に行っていく。また、保護者への連絡に大高メールも活用するよう働きかける。</p>
<p>6 探究学習 の推進</p>	<p>a 総合的な探究の時間で、各学年において目標とする力を身につけられるように、組織的な支援体制を構築し、外部機関との連携の強化を図る。 目標：生徒の探究的な学習に関する目標指数 ・肯定的評価85%以上</p> <p>b 生徒の自主的な学びを支援するために、希望制講座の充実と学習アプリの効果的な活用の促進に努める。 目標：生徒の自主的な学習に関する目標指数 ・肯定的評価85%以上</p>	<p>a 総合的な探究の時間で目標とする力は、3年生は書く力、2年生は話したり聞いたりする力、1年生は調べる力であるが、身につけるべき努力ができたという回答した3年生は91%（この学年の2年生時は75%、1年生時は84%）、2年生は91%（この学年の1年生時は87%）、1年生は92%であった。全学年で目標値を上回っている。生徒の具体的な活動が引き続き充実するように、次年度の検討・計画をおこなう。</p> <p>b D-Timeを通じて、見通しや目標を立てる力をつけるため、学習・行事・探究の振り返りができたと回答した3年生は92%（この学年の2年生時は79%、1年生時は85%）、2年生は91%（この学年の1年生時は90%）、1年生は94%であった。全学年で目標値を上回っている。生徒の具体的な活動が引き続き充実するように、次年度の検討・計画をおこなう。</p>	<p>a 今年度2年生の探究活動では、昨年度より中間発表の時期を遅らせることで準備時間を多くしたり、自己のテーマ・内容を発表する機会を増やしたりした。このことが、2年生においても肯定的回答率の上昇につながったと考えて、次年度も同様な時期や内容をふまえて計画する。他学年では、これまでの流れを引き継ぎつつ、さらに活動が充実するよう、検討・計画する。</p> <p>b 昨年度は、D-Timeの自主的な学びを支援する活動（学習計画・調整、希望制講座、学習アプリ）の時間が週1回に減ったことで肯定的回答がやや下がった。今年度はこの時間枠のなかでも、学習計画の見直しや希望制講座を分散（2学期と3学期に分けた）、進路支援部による学習アプリの見直しなどが、奏功したと考えている。この流れを引き継ぎつつ、さらに活動が充実するよう、検討・計画する。</p>